

天津の街の様子



もうとすると、大多数の一般社員が月収3000元から5000元ですから、何年ローンを組めばよいのでしょうか。先にお金持ちになった人が投資目的で購入して、賃貸に出すというのが一般的みたいです。経済格差はどんどん広がって、この先どうなることやら。

日本がかつて経験した不動産バブルが、その何倍もの規模とスピードで進行しています。市内中心部はもとより、ドーナツ状に外へ外へ、建設は広がって行っています。ただ、1平方メートルが中心部の一等地で2万元以上、校外のバスも運行していないようなところでも7000元が下らないような価格です。マンションの内装前の価格です。土地はそもそも国家からの借り物ですから、日本と仕組みがちがいます。100平方メートルのアパートに住



車が並ぶすぐ近くで、大勢の建設労働者が道端の路肩に座り込んで食事を取っている風景が見られます。すさまじいコントラストです。

市内中心部の一角を写しました。低く見える手前の古いアパート群の外側に、比較的新しいビル群が林立しています。破壊と建設のスピードはすさまじいです。戦前の外国人居留地・租界の建物が一番手前に残っています。ほとんどが借家に出されていて、画面の一番前はレストランや政府機関が入っています。高級レストランの前の道路には、夕刻になると高級車が道一杯に駐車しています。ドイツ、日本のメーカーなど、雑誌でしか見たことのない車



はこの一年で50パーセントを超すのではないのでしょうか。少しでも安い食材を探す退職者を満載したバスの横をポルシェがクラクションを鳴らしてすり抜ける。そんな光景も見られるのが、今の天津です。

上の写真の左奥に見える古いアパート群の一角です。資産価値が10倍になった人々は、年収の数倍出して車を購入します。一般的な日本人の感覚ではわかりませんが、電気・水道・公共交通機関などの価格は政府が低く抑えていますから、最低必要な生活費は日本の1割程度で済みます。要領よく稼いだ人は車につぎ込むのでしょうか。昭和40年代後半のモータリゼーションの時代を思い出しました。ただ、食料品の価格上昇ペース

天津日本人学校 木村